

住信為替ニュース

THE SUMITOMO TRUST & BANKING CO., LTD FX NEWS

第2100号 2012年02月06日(月曜日)

《 surprisingly good 》

先週金曜日に発表された米1月の雇用統計は、市場を驚かすほど良好なものでした。非農業部門の就業者数増加幅は予想の15万人を大きく上回る24万3000人に達し、この結果失業率は8.3%に低下した。厳しい寒波が襲っている欧州とは逆に、今年の冬のアメリカが全般的に暖かいために、建設労働者などが予想以上に雇用されたことも指摘されているが、雇用の伸びは幅広い業種に及び、米雇用情勢が改善に向かっていることを伺わせた。筆者が注目した統計の中味は

1. 11・12月分の雇用者の増加数は当初発表から計6万人の上方修正となった。2009年以降の景気回復局面では、雇用者数が統計発表後に上方修正されるパターンが続いており、週間労働時間に関する指数は前月比0.2%上昇した
2. 製造業は予想を大きく上回る5万人の雇用者増と、1年ぶりの伸びとなった。これは製造業の雇用が比較的賃金も高く安定していることを考えれば、大きな数字だ。小売は1万0500人、建設は2万1000人それぞれ増加した。暖冬による影響で両セクターとも雇用創出が押し上げられた可能性もある
3. 雇用創出は実に幅広い業種に広がっており、民間部門の雇用に関する判断指数(DI)は64.1と12月の62.4から急上昇。2011年4月以来の高水準となった。同指数は50を越えると、雇用を拡大した業種が雇用を削減した業種を上回ったことを示す
4. 雇用市場の改善は、雇用主・家計の両調査で鮮明である。家計調査によると、毎年1月に行われる人口の年次調整後でも雇用者数は63万1000人の大幅増となり、失業率を押し下げた。労働人口は25万人増加したが、雇用者数の増加幅はこれを大きく上回っている。

など。今後も月20万前後の伸びが続けば、米失業率はもっと低下することが予想され、これは既に始まっている米大統領選挙の観点から見ると、「現職のオバマ大統領に有利」ということになる。この雇用の統計を好感したのは株式市場です。統計発表を受けた朝方にどんと上がり、そのまま日中高値で推移した。終値は、ダウが156.82ドル、1.2%高の12862.23ドルで、これは2008年5月以来の高値。Nasdaqは1.6%上昇して2905.66と、2000年

の12月以来の高値。

債券相場は、1) これでQE3が必要なくなる 2) FRBが言うように14年末まで低金利を続ける必要があるのか——という二つの観点から、短期債を中心に売られた。つまり利回り上昇となった。その結果、ドルは各国通貨に対して上昇して、対円ではずっと張り付いていた76円を割りそうな水準から、76円台の後半になった。ドルの対円での動きは鈍いが、その他の通貨に対しては結構大きな上げになったものもある。

《 new power = U.S. 》

このところ世界経済にとっての最大の懸念材料は欧州の債務問題、それに伴う景気の後退で、実際のところ欧州の景気は非常に悪い。今回出たアメリカの雇用統計は、欧州に集中していた懸念を若干でも和らげる効果がある。この結果、金融緩和の進展もあって世界的に株価は上昇機運に乗る可能性も指摘される。

欧州の債務危機は、材料としてもかなり織り込まれてきたから、アメリカの景気の強さの方が材料としては新しいからだ。もっともドルの円に対する上昇は、あまり目立ったものにはならないだろう。先週も指摘したように、円には短期的な上昇圧力がかかる可能性がある。

今週の主な予定は以下の通りです。

- | | |
|----------|--|
| 2月6日(月) | ブラード米セントルイス連銀総裁が「米国でのインフレターゲットィン グ」について講演
フィッシャー米ダラス連銀総裁が「経済と金融政策の見通し」について 講演 |
| 2月7日(火) | 12月景気動向指数
豪金融政策委員会 |
| 2月8日(水) | 1月景気ウォッチャー調査
ウィリアムズ米サンフランシスコ連銀総裁が「FRBと景気回復」について講演 |
| 2月9日(木) | 12月機械受注
1月消費動向調査
韓国金融政策委員会
ECB理事会
米新規失業保険申請件数
米12月卸売在庫 |
| 2月10日(金) | 米12月貿易収支
米2月ミシガン大学消費者信頼感指数(速報値)
ピアナルト米クリーブランド連銀総裁が住宅市場について講演 |

《 have a nice week 》

週末は如何でしたか。寒い二日間でした。土曜日の東京はまだ日差しがあったので日中は暖かかったのですが、日曜日は日差しもなく寒かった。土曜日は神戸にお伺いしました。日曜日はずっと家にいてもと思って風がなかったので「よし東京タワーに上ってやれ」と思ってチャレンジしました。階段で上がるのです。

全部で600段。最初どえらい数字だと思ったが、登り始めたら直ぐ300になり、500になりで案外素早く到着した。上りと下りの階段が別々になっていて、登りの階段にはほとんど人がいないのに、下りの階段で下りてくる人はいっぱいいる。つまり展望台までエレベーターで上がり、そこで景色を見た後階段で下りてくる人が多い、ということでしょう。我々はその逆でした。

それにしても人が多かった。東京スカイツリーも開業を控えているし、「高いところブーム」なんでしょうね。従業員の方に聞いたら、東京スカイツリーが開業したあとも東京タワーはずっと残るそうです。観光に活路を見いだすということでしょう。ただし、水族館とか蠅人形館とかがありますが、ちょっと古くなった印象。「どう生き残るのか」は大きな課題でしょう。

それでは皆様には良い一週間を。

《当「ニュース」は住信基礎研究所首席研究員の伊藤(E-mail ycaster@gol.com)の相場見解を記したものであり、住友信託銀行の見通しとは必ずしも一致しません。本ニュースのデータは各種の情報源から入手したものです。正確性、完全性を全面的に保証するものではありません。また、作成時点で入手可能なデータに基づき経済・金融情報を提供するものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。投資に関する最終決定はお客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。》